

島 越郎（2005年度日本英語学会新人賞 佳作）

このたび、日本英語学会新人賞に投稿していた論文が佳作に選定され、平成17年11月12日に九州大学で開催された第23回日本英語学会の総会で表彰されました。この賞は、日本英語学会が、若手研究者の育成と研究活動の促進を目的とし、学会20周年を記念して2003年に設定した賞であり、今年度が3回目になります。過去2回において新人賞と佳作に選ばれた研究は無く、今年度初めて私の論文が佳作研究に選ばれました。（尚、新人賞は未だに出ておりません。）

論文名はReducing Pseudo gapping to VP ellipsisで、英語の省略構文に関する研究です。英語には色々な省略現象がありますが、今回取り組んだ現象は次のようなものです。

- (1) John will select me, and Mary will too.
- (2) John will select me, and Mary will you.

(1)ではMary will の後で動詞とその目的語select me が省略されているのに対し、(2)では動詞 select のみが省略されています。論文では、この二つの省略構文の類似点と相違点を様々な角度から考察し、それらを体系的に説明することを試みました。未解決な問題も幾つか残りましたが、この試みが評価されたことを嬉しく思っております。

今回の論文は、過去3年間にわたり私が人文学部で開講した英語学特殊講義が土台になっています。思いついた半熟のアイデアを授業で紹介するたびに、「先生の言うちよること、ようわからん。もっと分かりやすく説明して」という厳しいお叱りを学生諸君からもらい、自分の考えを練り直さなければならないことが何回もありました。当時は腹立たしく思いましたが、今となってはとても貴重なトレーニングをさせてもらったことに大変感謝しております。

私は東北大学の出身ですが、東北大学金属材料研究所の所長をつとめられた本多光太郎先生の言葉に「今を大切に」という言葉があります。恐らく本多先生が教え子に贈った言葉ではないかと推測されます。私はこの言葉を学生時代に知りましたが、年齢を重ねるごとにこの言葉の重みを強く感じるようになってきました。大学が法人化され、研究を取り巻く環境が時間と研究費の両面で厳しくなりましたが、こういう時だからこそ、地に足をしっかりつけ、自分の出来ることを一つずつ確実にやっいていこうと考えております。

(YU-Information No. 78、p.49より許可を得て転載)